



環境と当社

当社のしごと

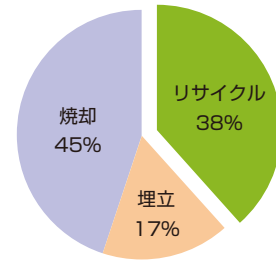
当社が行っている事業は、一般廃棄物・産業廃棄物及び特別管理産業廃棄物の収集運搬、破碎等による中間処理です。事業の概況は次のとおりです。

廃棄物処理

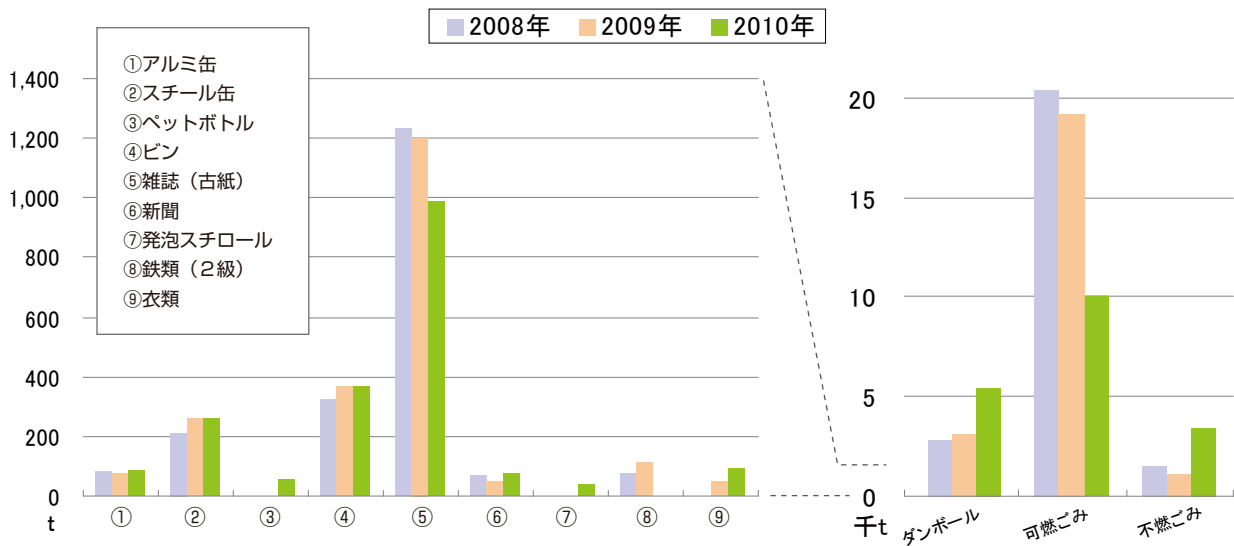
■一般廃棄物

可燃ごみ、不燃ごみについては収集運搬した後、市町村の処理工場へ運搬し、それぞれ埋立・焼却処分されます。ビン・カン、ペットボトル、古紙、雑誌・新聞、ダンボール、鉄、衣類などの有価物は当社へ持ち帰り、選別した後リサイクル処理されます。2010年のリサイクル処理の割合は38%でした。

一般廃棄物リサイクル割合



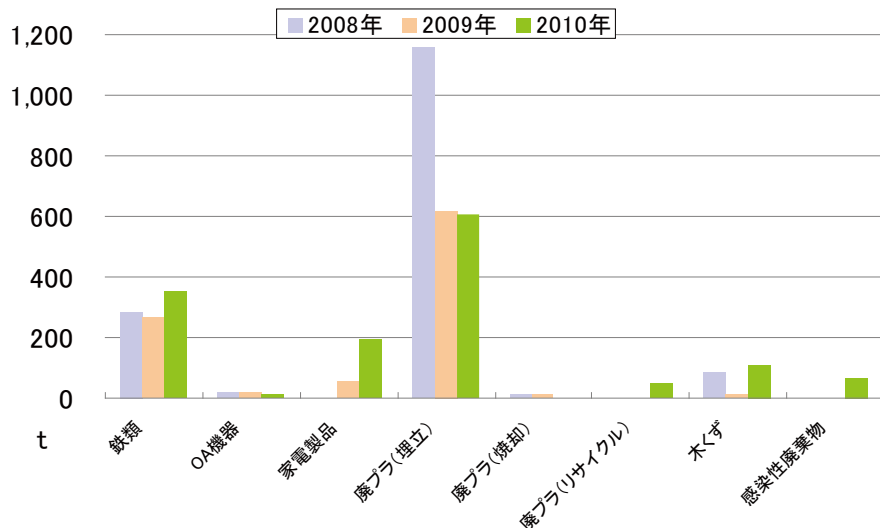
一般廃棄物



■産業廃棄物

収集運搬後、当社へ持ち帰り、選別・中間処理を行い、リサイクルできるものと埋立・焼却処分されるものに分別して、処理しています。

産業廃棄物



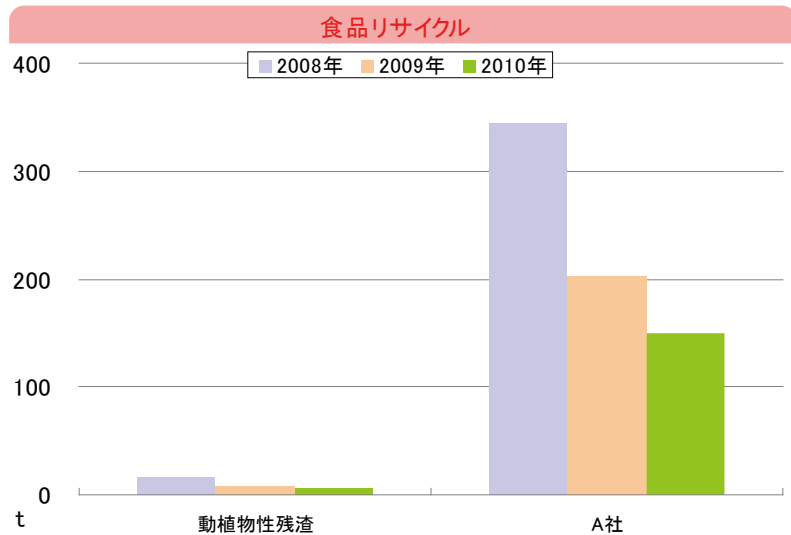


リサイクル

一般廃棄物、産業廃棄物の各種リサイクルに係わる事業の概況は次のとおりです。

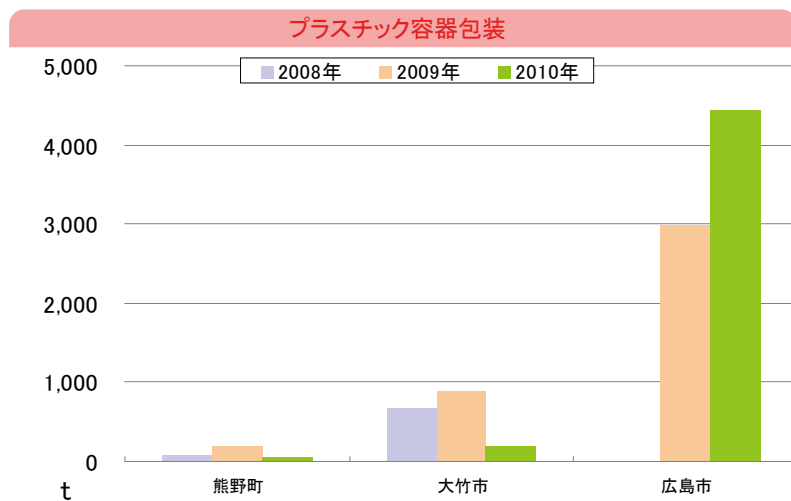
■食品リサイクル

A社等で食品を製造する際に発生するロスを当社へ持ち帰り、高速醗酵処理機にかけて堆肥の原料を生産し、食品リサイクル業者へ搬出しています。



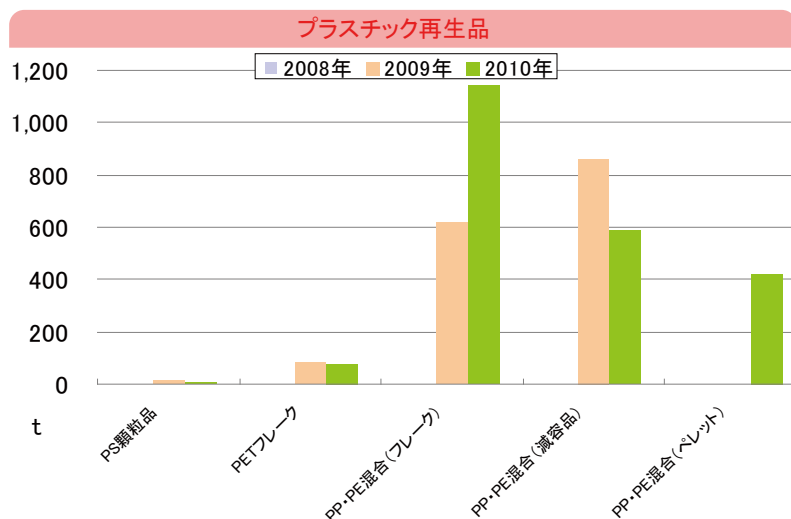
■プラスチックリサイクル

容器包装等のプラスチック、ビニール類は素材ごとに選別、洗浄した後、プラスチック製品の原料を生産し、出荷しています。



■主要な製品の内容

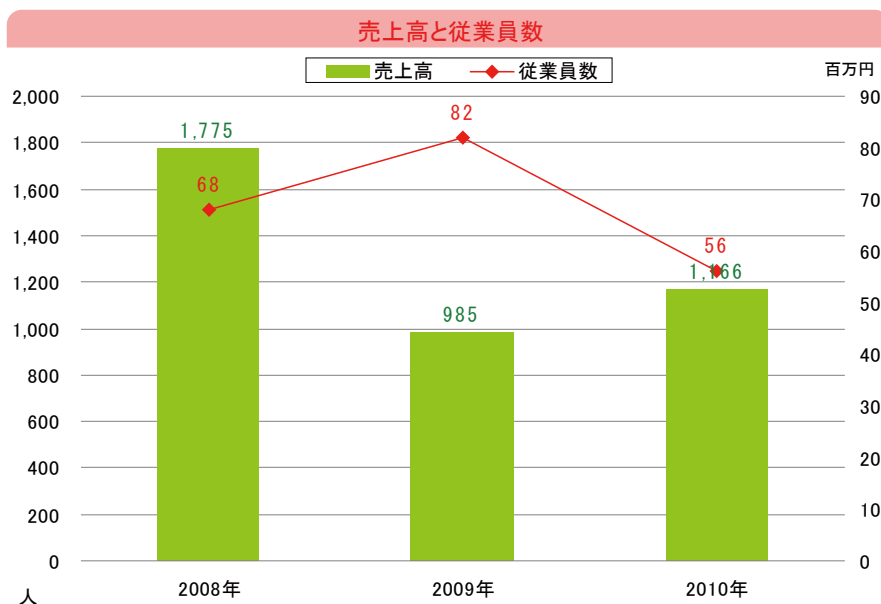
主要な製品として、プラスチック再生品があります。これは、廃プラスチックから再生プラスチックの原料となる減容品やフレークを製造するものです。2010年は、PP・PE混合フレークやPP・PE混合減容品を中心に2,232tの製品を製造しました。



当社のすがた

■売上高・従業員数

2010年の売上高は11.7億円、従業員数は56人です。過去3年間の売上高と従業員数の推移は表のとおりです。



■経営関連情報

2010年のその他の経営関連情報は以下のとおりです。

科目	金額 (円)
売上高	1,165,674,390
総資産	2,801,568,822
売上総利益	1,165,674,390
営業利益	173,146,734
経常利益	187,070,691
当期純利益	94,377,551



環境と経営

■環境効率指標

事業活動にあたっては、できるだけ少ない環境負荷で、できるだけ多くの成果をあげることが求められます。事業に伴って発生する環境負荷と、事業によって創出される経済的な価値との関連状況を環境効率指標として表します。この環境報告書では、次のような環境効率指標を採用します。この環境効率指標では、価が高いほど環境効率がよいことになります。

$$\text{環境効率} = \text{付加価値} / \text{CO}_2 \text{ 排出量}$$

ここで「付加価値」とは、企業が外部から購入した原材料やサービスに対し、企業内でどの程度新たな価値を生み出したかを示すものです。付加価値額の算出には様々な式が用いられますが、「ガイドライン」に従い、次式により算出します。

$$\text{付加価値} = \text{営業利益} + \text{人件費} + \text{減価償却実施額}$$

	2008年	2009年	2010年
営業利益(千円) ①	349,174	514	173,146
人件費(千円) ②	348,001	287,002	355,496
減価償却費(千円) ③	129,736	97,486	105,697
付加価値(千円) ④=①+②+③	826,911	385,002	634,339
CO ₂ 排出量(kg) ⑤	1,392	1,290	1,569
環境効率指標 ④/⑤	0.59	0.30	0.40

※会計年度は毎年4月1日～翌年3月31日

2008年、2009年、2010年の環境効率指標はそれぞれ0.59、0.30、0.40で、2010年は環境効率が前年より0.1ポイント上昇しました。原因としては営業利益の向上による付加価値の向上があげられますが、前年に比べCO₂排出量が増加していることに注意が必要です。